

国分寺市図書館運営協議会 第2期 第4回定例会 要点記録

日 時：平成21年7月9日（木）午前10時～12時

場 所：もとまち公民館 会議室

欠 員：1名

傍 聴：なし

会長：第2期第4回の図書館運営協議会を開催する。事務局から資料の説明を。

事務局：事前に送付した資料は4点で4-1、①「国分寺市子ども読書活動推進計画進行管理表（案）」
②「公益床整備に向けて」という駅前開発の資料、③第3回運営協議会要点記録、④「国分寺市
立図書館の事業の概要 平成21年度」、さらに本日になって、第4回定例会のレジメ及び資料、
資料の4-2として5月18日から7月5日まで受け分の「ご意見箱」への意見を配付した。
前回の要点記録について何かあったら事務局まで連絡を。

担当：本日追加した資料の説明をする。6月1日号の「市報国分寺」1面のコピーで、国分寺駅北口開
発の記事。学校指導課が作った学校図書館の活動紹介の案内。市立図書館の児童担当が作った今
年度読書推進の取り組みの一覧表。チラシを説明する。「中学生向け団体貸出用図書セットができ
ました！」という案内。中学生向けおすすめ図書のリストを作ろう、という中学生自身に記入し
てもらう「おすすめ本記入用紙」。今年度東京都の助成金がつき、手作りの紙芝居を作るというワ
ークショップのチラシ。もとまち図書館の映画会のお知らせ。前から要望が高かった上橋菜穂子
さんのもとまち図書館で行う講演会のお知らせ。

会長：協議事項として、「子ども読書活動推進計画の進行管理について」、「運営協議会の年間予定につい
て」、それと「駅前図書館の進行について」と3つある。最初に子ども読書活動推進計画の進行管
理について、事務局から説明を。

担当：前回進行管理表で数値が入っていない部分について、入れられるものは出来るだけ入れたらとい
うことで、蔵書数、おはなし会の実施回数、チラシの配付数など考えられる数字を入れた。ただ、
学校図書館の地域開放と学校図書館の充実というあたりが学校指導課にお願いした数字がまだ送
られてこないで、空白になっている。

会長：大まかにポイントの説明を。

担当：前回数字が入っていなかった部分を説明する。管理表1ページの最初の部分、「市立図書館資料の
充実」の項目の20年度実績に、児童書の蔵書冊数16万4千冊を入れ、内容には、年間増加冊
数4,219冊を入れた。この中には団体貸出セット、ビックブックなどの要望に応えるため補充
した数も含まれている。次に表の一番下の「市立図書館でのおはなし会の実施」には、20年度
実績に、図書館でのおはなし会の実施回数165回を入れた。今後の4年間の目標値には、乳幼
児と、大きい子向けのおはなし会を、最低でも月一回、それぞれの館で実施できればという数値
を計算して入れた。次に2ページの下から2番目の「乳幼児向けブックリスト（配布）」の今後の
4年間について2000部という数を入れた。国分寺市の年間出生数が約1000人なので、他
に子どもの関連施設に配布することを考えて入れた。前回数字が入っていなかったところは以上。

会長：評価の部分の○×△は、後ほど検討して入れるのか。この会ですということか。

図書館長：運営協議会で議論いただくことかと思いいれおかなかった。

会長：これを入れ始めると、1日ぐらいの協議会では終わらない。

図書館長：では事務局で入れた上で、この次の協議会で点検していただく。

会長：評価欄は、次回に○×△を入れて提案していただく。何か、気づいたこととか、協議会で議論し直してほしいところはないか。

委員：さっき配った「でんでんだいこ」という私達の「おはなしの会」の活動記録の小冊子を持っているような学校を回って司書たちにお話を聞く機会があったが、とにかく1人職場でやりにくいということだった。国分寺市では1995年から各校2人分担で司書が入りはじめたがお互い顔合わせもなく、名前もわからなかった。最近はやくなってきたが、司書がお互いに報告し励まし合っていく場、集まって研修する場がぜひ必要だと、すごく司書たちが言っていた。そこで、学校図書館の充実という項目に司書の研修の充実というのを入れることが非常に大事だ。司書が入り始めて随分経つが、今年も新しく入った方への、今まで国分寺市でどのようなことをしていたかという積み上げがゼロだという。税金の無駄使いというか、雇っても最初の一から学んで、わかったころには採用期限切れになってしまう。研修の場を設けていただければ、積み上げたものを新しく図書館に来た人に渡していける。司書はブックトークもストーリーテリングも何も習わないで学校に来るそうだ。資格を持っていてもゼロの部分がいっぱいある。研修は必ず必要ではないかということ、どの司書も言っていた。

委員：前回同じような話をしたが、今私たちは、子ども読書の管理表の話をしている。今の問題は読書計画とリンクしていることではない。もし司書にそういう問題があるなら、別の対応が必要。

委員：学校図書館の充実の項に司書の研修の充実という項目が必要と言っている。

委員：それと、20年度はもう終わった年度のこと。必要なら22年度の課題として設けていくべきことではないか。

委員：その時あった問題を文章にしきれていなかったと思う。話はしていたが項目として起こしきれなかったので、追加してほしい。

担当：学校図書館の充実という中に、例えば読書推進計画の15ページの最初の学校図書館の充実の中に、アドバイスができるようにするとか、情報交換会の充実や研修を受ける機会を設けるといふふうに入っている。進行管理表の2ページの学校図書館の図書指導担当の配置の充実のところ、司書の充実に関連して研修というのも入れたらどうか。

委員：図書館や児童館がやる研修もあるが、司書同士が学び合う場ができればいい、学校間格差が大きくなって、格差が広がってしまう。子どもたちが運によって、いい学校図書館に出会えたり出会えなかったりでは気の毒なので、研修という項目を足して最後に評価していくようなシステムを構築していただけたらうれしい。

委員：学校図書館の充実を図りたいという悲願がある。その関連で司書の充実を図っていく必要がちょっと欠けているのではというお話だった。市の図書館と学校の図書館の連携をうまくやっていくことによって充実ができるのではないか。学校の先生が悩むことを市の図書館でバックアップしてあげるとか、お互いに連絡をとり合ってやってくということを考えていいのではないか。

委員：1人職場で司書たちの勤務時間の中で研修を確保できない。有給休暇を取って、新しい方のところに行って教えているそうだ。勤務の中で保証し研修ができてほかの人間にも生きるシステムに

していただきたい。項目を1つ増やしていただきたいけたらと思う。

図書館長：今していただいている議論の性格だが、子ども読書推進計画は向こう5年間までターゲットになっているのだから、作文に終わらせないため、1年1年たったところで予定がどう達成できたかチェックをするため進行管理をしようということをやっているわけである。計画には盛り込んでいたのに進行管理表では抜けている、バランスとして小さくなったり薄められている、もっとここを拡大しなければバランスが悪いとか、そういう指摘はあり得ると思う。もう1つは、5年計画というのは出発前の想定であるから、2年目、3年目、だんだん状況が変わり、予想されない事態が起こってくるから、あの時はまだ抽象的にしか出ていなかったが、この辺は大きくしなければいけないのではないかという途中の議論は当然あってしかるべき、そうでないと過去に縛られてしまう、計画段階ではまだ抽象的にしか書いてないが、そこまではできたのだから少し大きな目標を立てたらいいのではないかという議論はあると思う。ただし、それは20年度の進行管理というよりは、21年度に向かってもう少し大きくしようかということではないか。計画自体では抽象的にしか書かなかったが、関連してどう政策を実現していくのかということでは、教育委員会であったり学校図書館を管轄している学校指導課に向かって、要望したり問い合わせたりという場合はあるだろう。その調整の中で今回どうするのかという議論であれば、学校図書館の充実については共通した想いを持っている図書館運営協議会の中では、もっと共感を持って迎えられる議論もあると思う。

委員：3回くらいこれで検討しているので逆にもうこれでいいのではないかと思う。学校の司書の問題を運営協議会で検討して、意思を市長に上げるなり教育委員会に上げる。運営協議会としてはこういう立場にあるのだと要望書をまとめるなり、別個の問題として考えていくのがいい。もう1つは、盛り込むとしたら4ページの学校図書館と市立図書館の連絡会議が目標的には3回になっているのを、もっと、6回だの10回だのという目標設定にしていくならわかるが、ここに無理に項目を入れる必要性がよく理解できない。

委員：司書というのは図書館で雇って派遣している職員か、学校の職員か。

図書館長：教育委員会が雇って学校に配置している職員である。

委員：学校で働いていたら学校の職員で学校長なり教育委員会の指示に従う。要望を言うべきところはここではない。学校長である。学校長を通じて連絡会議を通じて要望を言うのが限度であって自分の傘下ではないことまで面倒見きれぬ話ではない。学校長のところへなぜ言いに行かない。貴校の職員がこれだけ困っているということを、ここで言ってもしかたがない。ここから派遣している職員でないとすれば、手が届くはずがない。

会長：ちょっと誤解を解かないといけないが、国分寺市の学校図書館、家庭での読書のあり方、公共図書館の活動、全体として市内の子どもたちの読書条件をどう充実させていくかという、そういう計画なので、ここは市立図書館のことだけしか議論できないということではないと思う。

委員：でもここで話す必要があるのか。

委員：あると思う。ここでしか話せない。

会長：そういう問題があるというなら、計画が進行する中で課題として入れるもの。

委員：入れたほうがいい。課題として、司書問題という形で。

会長：この協議会の議題として考えるやり方と、もう1つは進行管理表の中に学校司書の研修とかそう

いったものを増やすのかというのが課題として見えてきた。

委員：市立図書館との連絡会議の時に学校の司書も出席しているのか。

会長：それぞれ違う。

委員：そこにメンバーとして必ず入れるというような一言を入れるだけでもいいのでは。必ず学校司書たちを入れて会議をやれば、そこで勉強になる。

会長：市立図書館と学校図書館関係者の話し合いは年に4回行われている。そこをやや拡大的に変えることも可能だろう。指導課と協力しながら図書館のほうから一緒にやりたいと提案することはできる。学校図書館司書の研修のあり方、司書教諭のあり方、市立図書館と学校図書館の関係のあり方、そこを整理していくことは大事だと思う。

副会長：そういう意味で課題のところに充実の体制づくりという項目が入らないかなと思った。

会長：事務局、それは入るか。

担当：副会長は3ページの学校図書館の充実の「読書センター・学習センターとしての機能の充実」のところで話されたが、学校図書館の司書に関していえば、2ページ目の読書活動の充実に「学校図書館図書指導担当の配置の充実」というのがある。このままでは、何人配置されたかという数字だけが入るが、もし研修等中身の充実もということであれば、3ページよりはここに入ると思う。ここを増やすことはできるのではないか。

委員：配置の充実と研修の充実みたいにしていただければ。

図書館長：了解いただいたところで表に文字を入れて、その文字も含めて次回は評価の点を入れてくることになるが。

委員：都内の他の学校図書館では、司書の研修が3回入っている。学期に1度くらいそういう機会があれば次の学期の学習のためにもなり、充実していくと思う。司書15人のお互いの経験を話し合っ、高め合うということ。

図書館長：配置プラスアルファが必要だというようなことだと思うが、研修というのはちょっと狭い気がする。配置及び中身の充実というぐらいのほうが広いと思うが。各委員から具体的に出ているのは研修という言葉だが、配置・研修でいいのだろうか。配置と内容の充実というのでは、言葉として広すぎてしまうのだろうかというのが、受け止めながら思うことである。ご意見がなければ、その辺のところでも預かりにさせていただく。

会長：では、議題の2番目の運営協議会の年間計画は後に回して、③の議題、駅前図書館計画の進行についてまず事務局から報告をいただきたい。

図書館長：運営協議会でようやく少し駅前図書館のことをご相談いただける段階に来た。6月1日の市報のコピーを配布した。最新の情報の大枠が出ているので、市報のところから説明する。

「国分寺駅前北口地区第一種市街地再開発事業に係る事業計画を決定しました」ということで、5月8日に設計概要が都知事から認可され14日に再開発事業の事業計画を市が決定した。これにより再開発事業が本格的にスタートする。国分寺市が施行者となり、平成26年度末に事業が完成することなどを伝えている。その他、新たに整備する交通広場や再開発ビルなど整備事業のあらましを紹介している。市報はスペースの関係で抽象的であるが、問い合わせられれば市役所あるいは都市開発部としてお答えする、ということを含んだ広報になっている。駅の北口に2棟のビルを造る。開発部で配ったパンフレットを今、回覧させていただく。

西街区は2棟の低めのほうのビルであり、その中に公益施設を入れて、図書館も入れることになっている。市報で2段目から3段目にかけて、西街区ビルは地下1階から6階を物販・飲食などの店舗、7～9階を業務・公益施設にする。公益施設としては、本多図書館の駅前分館、国分寺Lホール（Lホールは現在地から移転）などを予定。その辺の議論の経過や、例えば子ども支援センターは落ちて図書館とLホールが残ってきた経過は、事前にお配りした「公益床整備に向けて」というプリントに書かれている。図書館を書いている部分はほんの数ページだが、駅前開発の何十年間来の課題がようやくここまで来たと結構きっちり書いてある文書ではないかと思う。出されたのは昨年10月だが、その後、議会承認を経たものである。

以下、プリントを読み上げて説明する。7ページ、既存施設の充実についてで、Lホール、北口サービスコーナー、本多図書館駅前分館が移ると書かれている。現在のサービスコーナーは西武多摩湖線の下にあるが、観光案内所と合わせて入っていく。それから3つ目の段落だが、ここが今、公的には確認されている部分ということになる。「本多図書館駅前分館は国分寺駅前の利便性を生かし、新しい市民ニーズに対応できる図書館として整備する必要がある。取り扱い業務としては、全市の図書館サービスの受付窓口として、蔵書検索・予約・貸出・返却機能、雑誌・新聞の閲覧や視聴覚資料、CD・DVD等の提供、行政資料・地域資料の収集・提供、ITを活用した情報提供、収集などを想定しており、約400平米程度となる。」

昨年、市議会で中央図書館をここに作ったらどうかと言った議員がいて、昨年度の運営協議会でもここで一挙に国分寺市の図書館の課題を解決させようという議論もしていただいた。そういう大きな期待の後で落ちた部分もあるが、一応ここまでは確保という形で承認されている。

今の段階でわかる情報をお話しし、委員さんたちのご意見を伺って今後の検討に生かしたい。今の段階としては9階のフロア、9階そのものは約3,000平米程度、その中で市の公益床が1,000平米程度は確保できるだろう。移転するLホールと図書館を中心に按配する。一方で浦和駅前とか橋本駅前図書館に触れて、駅前ビルの上階に図書館を設置しシャワー効果への期待が書いてあったが、400平米に落ちついた。機能についてはここに書いてあることと、当初市長が議会で説明した市政情報の公開とか、地域資料の充実をターゲットに設置ということである。

これぐらいが今決まっているところ。従って、国分寺市の中では今までは地域の図書館ということで、先ほど議論していたような子どもの読書であるとか、日常の生活利便のために作られた図書館が多かったが、それとは毛色が違うものが想定されている。

スケジュールとしては、今年の12月には計画の縦覧を行う予定。そうすると、何階にはどういう施設が入って何平米程度で、位置はこの辺でということは固定されていく。図書館は大まかなレイアウトを決めてその後に詳細な議論というのもやり得る施設であるが、公益床は何階で図書館がこの位置に何平米程度でと入るというあたりは12月に決まる。だから平米の問題もそうだが、この施設にどの程度の機能を織り込むかなど、それまでにということである。あとは質問いただきながら、お話ししたい。

会長：昨年、運営協議会では市立図書館のあり方について答申をさせてもらって、将来の駅前図書館には中央図書館の一部を担えるような、そういう想定をしながら提言したが、今、案として出ているものは中央図書館の代わりにならない。従来の位置づけとは違う意味も込められているようだ。そうであるならば余計に、本多図書館としての関わりでどういう役割を見出すのか、アイデアを

皆さんから出していただきたいと思う。それ以前に質問などいかがか。

委員：400 平米という限られた面積、だが例えば集まってミーティングをする場所は非常に重要ではないか。そういうアイデアを入れておかないとどこかに消えてしまう。市の図書館と学校の図書館との連携とか、これからますます重要になってくる。特に、図書館内で会議ができないといつまでも公民館を借りるというようなことでなく、図書館が自前に会議室を持って集まりやすい場所を用意するというのが非常に重要だ。この辺を忘れないように考えたらいい。

会長：400 平米の中で会議室まで作るのは…。

委員：階は低いほうがいい。行く必要なければ最上階に行かなくていいのだから。逆に図書館が最上階だと返却ポストや予約ボックスを下の階に作る必要が出てくる。ただ返すために上に行く必要があるか。もう1つはリクエストの受け渡し。韓国で便利のいいところにコインロッカーみたいな予約ボックスを設置したことを聞いた。

委員：ほかの図書館にはない特色あることをやっていかないと、せっかく駅前に出す意味がない。地域の文化とか、そういうものにしていく必要がある。立川はご存じのとおりすごいマガジンコーナーがある。そういうスペースで勝負できないわけなので、他にはない機能を400 平米の中に持つようにしないと。独立独歩の動きというか、スペースは狭いが国分寺市としての別の意義を何か挙げていただければありがたい。

委員：ちなみに、本多図書館は何平米あるのか。

図書館長：約900 平米で、駅前はその半分のスペース。

委員：岡田委員がおっしゃるように、雑誌だけをものすごく充実して網羅する。そういうある制約的なテーマで絞ったものを作ると話題にはなる。どんな専門誌も置いてあるみたいな形があると、結構深い部分があって若い人たちは増える。駅だと必ず若い人も通るし、そこをターゲットにする。

副会長：答申にも入れたが、日本全国、国分寺はいっぱいあるが、国分寺市という名前はともかくこの市しかない。だから、国分寺に関する資料を揃え、アピールし展示すればどうか。国分寺駅はずいぶん人の出入りがあり史跡に最近では各地の方が見える。お鷹の道とか。帰りに、「どこか、何かないの？」と言われる方が結構あるそうだ。まして駅に直結しているのは場所としてすごく好条件で、それを生かして、ちょっと上だけど食事でもしながら見ていってもらおうとか、そういうアピールができる場所を確保できたらいいと思う。

会長：現在の分館は地域の行政・文化資料の分館であるが現在の小ささでは十分な機能を持たすことはできない。そういう性格は、やはりあってもいいのではないか。国分寺市の図書館ではこれまでそれほど重視していなかった部分であった。それからLホールが隣にできるということとの関わりだけでも、新機能があってもいいのではないか。例えば、これまで子ども向けはいろいろあったが、成人向けやビジネスマン向け講演会などを公民館ではなく図書館がやってみる。それは人が集まる。駅ビルが使えることと、それから駅に集まる層は地域館とは当然違うのではないか。広さこそ400 平米だが、機能としてはできなかつたいろいろな取り組みをしたほうがおもしろいという気がする。私はその機能に期待している。3,000 平米という大きなものができれば、中央館的にいろいろ考えられるがそれは難しい。

副会長：先ほど私が申した史跡に関することでも、公民館の持っている情報がどこまで図書館と通じているのかちょっと疑問のところがある。併設なのになかなかうまく機能していない部分もあるが、

公民館との連携を少し考えていただきたい。そうすると図書館だけで考えるより違う視点、違う情報があると思う。今年公民館が子どもへのお話のことを企画する。図書館と連携がとれているのかと疑問に思う。図書館と連携したほうがいい。そういうふう感じた。

会長：先ほど、12月に計画の縦覧実施とあったが、それ以降は面積とかそういうのは変わらないのか。

図書館長：そうだ。

会長：そうすると、そこまでに…。もっと大きくする要望とか、公益床は9階の中でわずか1,000平米かという話にもなる。それは全く変わらないのか。

図書館長：市民要望も行政の中での再検討も含めて12月には決まるということだと思う。

委員：決めたのは庁内のメンバーか。

図書館長：庁内メンバーで検討し議会承認はとってある。駅周辺整備の部長級の推進委員会があり、その中の公益床に関わる専門部会。

委員：説明されたもののイメージをつかもうとしている。地域資料・行政資料の必要なスペースを見積もると、100、200平米くらい必要か。そのほかDVDとか新聞・雑誌の閲覧に取られると、相当厳しい面積か。蔵書検索と予約・貸出・返却機能の受付窓口としてやっていく…。400平米だと、そうだろうと思う。実用書とか児童書等はもし入れるとしたらかなり中途半端だ。そういうイメージを持ったところ。雑誌を入れるのもかなり怖いなど。

副会長：市の権利で使えるのは、まだそれ以外のスペースもあるのか。

図書館長：例えば、開発される地区にお店があつて移転しなければいけない方たちは新しいビルに入っていく権利がある。同等な意味で、開発地域に既に市が買い取っている面積があれば、それは基本的に新しいビルの中に市が入っていける面積ということになる。本来の権利床はもっとたくさんあろう。このビルの中に1,000平米程度だけ公益床を活用するというか、売れば市に収入が入ってくるわけで、1,000平米程度は市の床として使うということである。

副会長：400平米であれば、居場所としてのスペースはないか。資料を置いて目一杯。ほかの業者のスペースで外をうまく活用して、飲み物とか食べ物のラウンジのようなものを図書館が借りて維持する。

図書館長：いろいろありがたい意見が出ていると思うが、松田副会長のおっしゃった史跡めぐりをして駅へ帰ってきて、もう一度図書館で資料にはどういふものがあるかと点検をする利用行動は結びつくと思うが、図書館の中にラウンジがあつたり、名物料理を食べさせるというような仕掛けは、ここでは作れない。むしろ何だけは残すというふうを考える床面積であつて、最低何と何だけは入れることにして、残りは徹底的に切り離さなければ中途半端になる面積であろう。あと坂田委員がおっしゃったが、行政資料とか地域資料とかを充実させるのであれば、100や200は要るし、逆にその程度あればかなりのものができて、その延長で参考になる民間出版物を入れても、200平米もあれば済む。これの先駆例は日野の市政図書室、最近では多摩市の分館で行政資料室ができています。それを充実させながら残りの200平米程度で何をするか何と何だけはピックアップして、という話になる。そうすると普通の小説とか料理の本とかは蔵書として置くというより受取機能として、駅前には使えるというようなことになるのだろうと筋道が行く。あと、移転するような大きさを想定してはだめだ。本多図書館は残し、本多と一体で役割分担を考えて構成するということになる。本多は中央図書館として想定されたわけではないので、面積の狭さもあるが、例えば

レファレンス資料とか、IT関係の設備とか行政資料とか課題がたくさんあった。場所は離れるが一体的に運営する分館として市政情報や地域情報の充実を求められているので、市政情報やITや、あまり国分寺市の図書館としては前に出せていなかったような、ある面、地域図書館らしくないところに特化して本多と一体的に運営する。実は昨年10月からインターネットの予約受け付けで、在架本といって本棚に普通にある本に自分で予約をかけて、便利な館まで取り寄せるという機能を仕上げた。10月から始まって3月までの半年間だけでインターネット予約が前年比6万件から9万件くらいに増えている。どこの図書館で受け取るかという実態を言うと、この半年で、もとまち図書館よりも並木図書館よりも、駅前分館で受け取るという希望が多い。ネットだけの統計だが、市内全体でとにかく予約は駅前で受け取るのが便利だというのが見えている。そうすると、その図書館にある本をそこで借りるよりも、とにかく受取機能が駅前にあることでサービスが果たせる。丸本委員がおっしゃった受取機能をどう充実させるかという問題。例えば配送機能をどう充実させるかという問題もある。

国内でも山中湖町の図書館とかで予約受取ボックスというのがあって夜中も24時間受け取れますとやっているが、ボックスが50くらいしかない。例えば本多図書館では毎日100冊レベルの本が受取待ちになっているので、そうすると仮にボックスだったらいくつ必要なのだという問題がある。そこはすごいアンバランス。中央線で駅の直近に図書館を作っているところはまだない。近くでは横浜線の橋本駅前とか、青梅線の河辺駅前とか、西武池袋線で保谷駅前に図書館ができています。中央線という幹線の駅前で本多と一体的な図書館としてどうするというのが課題。皆さんに言っていたことは非常に参考になる。

岡田委員が言われたが、これまで図書館で何が足りないかと言うと会議室だった。集会行事も職員会議も公民館を借りてやっている。だからミーティングルームは、市民の方とミーティングも内部のミーティングも含めて、分館とは言いながら大事な指摘ではないかという気がする。

会長：12月までということであれば、まだ何回か議題にできるか。

図書館長：随時情報は出せるのと、図書館は機能の問題であって、何平米確保でき位置はどこになったという後でも、その中をどう配分するかは、楽しみはある。今後も情報を提供し委員の皆様にご教壇を貸してというふうにしたい。

会長：この問題はよろしいか。では、運営協議会の年間予定に関わって、前回たくさんのご意見をお伺いした。学校見学とか、教育委員の方々の懇談会はできないかとかがあった。今年度について言えば、5月、今日の7月と運営協議会が行われている。年度で5回ということになるので、あと3回。とりあえず、どんなことをするかという意見を交換してもらおう。

それから、国立市の図書館協議会が10月に勉強会をやる。その時に他の自治体の協議会の方々とも意見交換ができればいいという要望が聞こえている。実は私が講師をやることになっていて、交流の機会を設けてみたいというのが私の気持ちでもある。図書館協議会は教育委員会に答申を昨年度出した。そういう関係があり、協議会の場でどうこう言っているだけではなかなか開けない部分がある。教育委員との懇談会も実現したいというところだが、いかがか。次回あたり、学校図書館の見学などを設定できないか。

委員：生の声を。

会長：司書や司書教諭の方のいるところで。実態として学校図書館はどうなっているのか、我々もなか

なか見る機会がないので、ぜひそういう機会があればと思っている。

図書館長：協議会を移らないで本多図書館でやるとすれば、七小はごく近いところ。

委員：一番広くてきれいな新しいのは四小。

図書館長：どこを見たらいいだろうというところでのご存じの方は。

委員：中学はどうか。

図書館長：人の配置でいうと、今年から小学校は全校位置。中学校はこれから配置という段階ではある。

会長：四小以外は、大体みんな同じか。

委員：規模が違う。子ども数が八小は四小の半分しかいない。そうすると、読書の時間に子どもがどんどん来る四小は満杯で、八小だとクラスが少なくて司書にもちょっと余裕がある。七小は、小規模校にしては歴史があって、予算も高いのでいい本がいっぱい集まっていると、いろいろ特徴がある。

あと、九小の司書はしっかりした方です。

会長：司書がちゃんと説明してくれるかどうか。

委員：そうすると限られてくる。

委員：会議の場所に近いところがいいのではないか。

会長：では、七小で。

図書館長：いろんなご意見があったので、調整する。

会長：今回は学校図書館の見学をする。年度内には教育委員会の方たちとの懇談会もやりたい。そういうことで今後進めていただく。以上で協議事項については終わりたい。次に、報告事項ということで、まず公募委員について。

図書館長：4月に転出で辞任の公募委員は、8月1日市報に募集を出し補充していただく。

会長：次に、予定している本年度取り組み課題の進捗についてお願いします。

担当：では、児童担当の予定を説明する。まず「中学生向け団体貸出用セットができました！」というチラシがあるが、前から小学校1年生に向けて団体貸出セットをつくり、たくさん利用していただいている。それで小学校の中学年用、高学年用というのを前年度からつくったばかりだが、中学生向けは今まで全くなかった。実際に小学校は母親が関わって学級文庫で団体貸出をしているが、中学校は全くそういう空気はない。中学生になると忙しいこともあり読書離れが進むので、図書館でセットを組んで生徒たちのそばに置けば手に取ってもらえるかな、ということで団体貸出セットを作った。やっと出来たところでまだ実際に使われていない。こちらからのPRも少ないので、ぜひ中学校に訪問してPRしたい。

それと「おすすめ本記入用紙」がお手元にあると思うが、中学生自身がどういう本を紹介するか、中学生にとっては私たちが勧めるより身近に感じて本を手にとってもらえると中学校の生徒たちとブックリスト作りをしようという企画である。どのくらい記入されたのが集まるものか初めてで、図書委員の生徒に限定して書いてもらい1つの中学校から10冊程度出してもらい、図書館のほうでもプラスして、中学生に向けてのブックリストを発行したい。図書館長が校長会の了解をとったので、今日以降、先ほどの団体貸出セットができたPRと同時に、ぜひ図書委員に協力してくださいと担当職員が五つの中学校に依頼に行くことになっている。

もうひとつ、東京都の多摩・島しょ子ども体験塾という補助金がついた事業のチラシである。やべみつりの氏を講師に手作りの小さな紙芝居をつくる子どもたちのワークショップを企画して

いる。今回は、西の光と東のもとまちで夏休みに2回行う。それ以外に、もとまちの行事がある。

担当：「なつやすみこどもえいがかい」は都立多摩図書館から無料のフィルムを借用し就学前から低学年向けに対象を絞り、原作の本があるのを前提に本を紹介しながら映画会を実施する。

講演会は上橋菜穂子という、若い方たちにすごく読まれているファンタジー作家を呼ぶ。「精霊の守り人」はアニメにもなり話題になった。今、「獣の奏者」がNHK 3チャンネルで放映しておりアニメになって小学校高学年ぐらまで年齢層が下り広がっている。アニメ制作は国分寺市のアイジーというアニメ会社でもある。今回特別にお呼びできた。

担当：お話ししたのは今の段階でPRをしているもので、21年度の中で市民との共催の講演会や並木の講演会、映画会など、これから実施していくものが幾つかある。子ども読書計画の中で挙げた事業を実施しようと児童担当は進めている。

副会長：紙芝居の大きさが、決まっているのか。

担当：ミニ紙芝居でキットがある。全部一からやると時間が間に合わなくなってしまう。一講座、3時間で行う。

担当：事前に下書き用紙を渡し、ストーリーを考え下書きしてくるよう依頼する。申し込んだ方には用紙を渡し、考えてもらっている。当日書いてもらうのは8場面くらい。

副会長：申し込み状況はどうか。

図書館長：7月3日から募集開始で7月21日が光図書館での実施で、8月の後半がもとまち図書館。7月から早めに埋まっているという状況だ。

会長：よろしいか。それでは次の報告。

図書館長：今のは子どもの関係で、その他の事業を報告する。まず、ICタグの貼付事業。今は蔵書はバーコード管理だが、微弱な発信器の付いたICタグを蔵書に貼付して離れたところからデータ管理できる体制に変えていくことが課題だった。ことしICタグを買う予算と、国の緊急雇用政策で、それを貼る人を臨時に雇う予算が付いている。これから製品を選ぶわけだが、500万円分のタグの予算で、多分7万冊くらいは貼れる。それでも図書館の全蔵書のまだ7、8分の1くらいである。どこの図書館からどういう貼り方をしていったら能率がいいのかその図書館全体が貼り終わらなければICタグを読み取れる機械を入れて稼働とはならないので、当面は予算を毎年確保しながら貼り続けることが大事になる。ICタグの機能としては、1つは蔵書点検が正確に速くなる。今は休館を何日かして点検しているが、蔵書点検が早目にできる。それと、盗難防止対策を国分寺市は機械的には何もしていないが、レンタルビデオ屋などにもあるゲートが入口にあって、そこを通るとき正規の手続をしていなければチェックがかかる仕掛けが割合簡単に導入でき盗難防止が図れる。もう1つは、自動貸出とか自動返却。本と自分の利用カードを両方そこに置けば、それでチェックがかかり手続をしたことになる。その3つくらいが大まかな機能といわれている。今、どの業者のタグがいいのかを職場内で検討している。夏の間を選んで契約し秋以降にまず一館、人を雇って貼る予定である。

あとは、本多図書館以外の夜間開館の検討を職場の中で始めている。今年4月から、9時半からの開館に30分早めた。そのことは好評だが、夜間延長が課題なので検討を始めている。

また、今年度は5つの図書館全部に工事が入り、その対応に追われている。公民館は休館してその間事業ができないで済むが、図書館はどこの館の蔵書も市内全体で動かしているの、休

館してもほかの図書館で請求されて本が出せるようにしておかなければいけない。今わかる部分だけ報告する。本多図書館は9月・10月が休館になる。蔵書はほかの館で受け取れる。光図書館が12月から3月の休館。もとまち図書館が12月中旬から3月中旬ぐらいの休館。恋ヶ窪図書館が12月中旬から2月の中旬ぐらいの休館となっている。本多図書館の休館は冷暖房工事だが、もとまち、恋ヶ窪、光の3館は耐震診断が公共施設として引っかかったので、地震対策の補強工事をしなければいけないということで、館によってはフロアに筋交いを入れるような形になる。並木図書館は、耐震工事ではないが、10月下旬から11月の中旬ぐらいの間に1週間程度は休館して雨漏り工事などをする。業者と細かい詰めをしながら、なるべく影響が少ないように、休館してもなるべくほかの館に本の配送ができるようにしようと検討している。

もう1つ、本多図書館の国分寺駅前の現在の分館だが、来年度中には駅前分館の入っている旧UFJ銀行ビル自身を取り壊される。そこに駅前開発の組織が入っており、まずは自分が移転しながら整備を進めることになっていて、そうすると今の駅前分館も引っ越さねばならない。取り壊されても代替えを確保するという交渉をしながら、今準備している。

会長：いつか。

図書館長：取り壊しは来年度中ということになっている。

委員：工事中、市民は、どこでも本が借りられないということは、ないのか。

図書館長：もとまちと恋ヶ窪と光が12月から3月の間に微妙に違いながら工事があるが、その期間は、もちろん本多や並木はやっていることになる。

会長：ほかにいかがか。事業概要の説明。

図書館長：それでは事業概要の話をする。国分寺市立図書館の事業概要というのをお送りした。前回の5月の時には、まだ年度の統計資料が揃っていなかった。市役所の事務報告書も図書館界の統計報告も独特のわかりにくいところがあるので、わかりやすいように今日のためにオリジナルに作ってみた。特徴的なことだけコメントしたい。蔵書状況はこんなことで、駅前分館は児童書はないということ、光図書館は閉架書庫があるのでフロア面積は駅前を除けば一番小さいが、本多に匹敵する蔵書を持っている。受入冊数は表のようにになっている。除籍は、フロアがいっぱいなので本来なら受け入れるのと同程度くらい外していかなければ窮屈さの解消にはならないが、あまり進んでいない。雑誌は議論はあるが市内の中であるべく重複しないように選んでいる。貸出せるようになるとどの館でもすぐに取り寄せられるが、最低限このくらいの雑誌は各館どこにもなければいけないという議論とのバッティングはもちろんあって、市民の方からもこの雑誌は近くの図書館にも置いて欲しいという要望はあるが、予算の問題や出版雑誌の種類が多さからいうと、「文藝春秋」とかそういうもの以外はダブらないようにしている。あとは聴覚資料、国分寺はビデオ・DVDはないので聴覚と書いた。もともと本多図書館と並木図書館だけで始めた事業で、最近5館で入れているので、フロアの置き場所も含めて、この2館だけは3,000タイトル以上の所蔵があるが、先ほど申し上げた雑誌などに比べダブらないで置いていること自体が効果を発揮して、とにかくどんどん取り寄せられて動いている。早く入れてくれこういうジャンルも入れてくれとか、なかなか要望に対応できない部分も多いが、ものすごく回転がよい。

次に、利用状況に行く。貸出数はトータルとして約108万冊になる。前年は102~103万だったので、5%程度伸びている。予約数だがインターネットで在庫のものも予約して他館で取り寄

せられる利便性は上がったというのは大きな変化である。団体貸出だが、この辺から見えにくかったものを紹介できるところがある。クラスを中心にした団体貸出で、本多図書館や恋ヶ窪図書館が多い。学期が終わってクラスに行っていた本が全部返ってくると本棚がいっぱいになるが、学期中は本棚はがらがらという感じになっている。複数入れていない児童書も多いので、個人の方が請求した場合には、ほかの在庫している図書館から取り寄せねばならない。その他、学校ではなく小グループの大人の市民の方が、冊数はそれほど多くはならないが、団体登録をして使っておられる。

リクエスト受付件数がトータルで 10 万 1,200 に増えた。前年が 6 万。6 万台から 10 万台に増えた理由で考えられるのは、昨年の 10 月以降にインターネットで在庫予約ができるようになったこと。他の図書館に本を確保という指示がものすごく出てくる。事務室に出てくるプリントされた依頼書を持ってフロアの本を確保しに行くが、スタッフはそれで走り回っている。リクエストに応えるための他の自治体等からの借用冊数だが、本当に多くの図書館から借りて対応している。国分寺市も依頼された本を貸している。

障害者サービスは、DAISY 図書というデジタル録音され CD に朗読録音された声の図書を入れ始めた。まだ全体としてデジタル化は進んでいない。

国立市・府中市との相互利用の実績。他の市はどのようなのだという議論がある。また、お世話になっている東京経済大学との協定、市立小中学校との連携。小中学校との連携では、連携を視野に入れながら昨年の 10 月に市立図書館は図書館の電算システムを更新し、市立の小中学校では新たに今までなかった電算システムを導入した。電算上の連携が、実際の運用ではまだうまく進んでなくて、宿題になっている。

その他の事業は、講演会とか図書館内でのおはなし会のこととか、職員だけでやるところと市民の方にも来てやっていただいているところとか、いろいろである。

子ども読書推進計画の関係事業、それから今年度予算の概要、この辺は前回申し上げた。あと、今後の事業予定が書いてある。

会長：この事業概要について何か。今年度の予算のところ、図書費の新聞・雑誌の数字が違うのでは。

図書館長：違っていた。図書費は市全体で 2,910 万円。新聞・雑誌費は、雑誌費が 499 万 8,000 円、新聞費が 182 万 6,640 円。CD 購入費は 55 万 5,000 円。

会長：IC タグは特別に今回新たについたというが、今年は何万冊くらいやるのか。

図書館長：500 万円で購入できる分という予算だが、単価が今の相場で 60 円から 70 円台ぐらい。そうすると 7 万冊ぐらいは出来る。幾つかの業者があり、安かろう悪かろうというのでは困る。

委員：除籍の基準はあるか。

図書館長：ある。幾つかチェックポイントがあって、積極的に除籍するというよりは、市内に最低 1 冊は残す、重複図書は利用度を見ながら除籍してよろしい、というような感じのものです。

会長：ほかにいかがか。ほかに情報提供等あれば。

副会長：ご意見箱を見ていたら、本の帯にブックカバーをかけてしまっているのが表紙が全部見られないという指摘があった。私はなるほどと思った。本を紹介しようにもブックカバーが外せない。ところが実はきのう気がついたが、子どもの絵本で帯を切り取って、中に貼ってあるのを見た。図書館は素早くこういうことを取り入れるなどと思ってすごく感心したので報告したい。

会長：ほかはいかがか。

委員：読書活動推進計画の17ページだが、「地域における読書活動の支援」というのがあって、「地域・家庭文庫・お話グループなどに対して地域の子どもたちに本の楽しさを伝え、読書の場を提供できるような支援を行う」という図書館の仕事がある、と書いてある。私たちは13年前から「でんでんだいこ」という会をやっている。活動は読み聞かせではなくて、お話を覚えてやるストーリーテリングだが、2006年からは学校の授業の中でもやっている。図書館に支援していただいて、会の後に学校で本が必要ならば図書館がその本を貸し出してくれるシステムができた。「でんでんだいこ」は2008年度には90クラスに行った。90クラスもやれたことは初めてだった。これを1つの節目かなと思って、文集をまとめてみた。去年、自分は図書館運営協議会代表で子ども読書推進計画の策定委員もやらせてもらった。文集の一番初めに17人のメンバーが子どもたちにお話を届ける気持ちが書いてある。子どもたちがこういうふうを受け取ってくれていることを、伝えられるとうれしい。

山口会長：今日はここで閉会にしたい。次回は？

図書館長：10月初めの1週目か2週目、木曜日の午前中だとすると10月1日か8日。学校図書館の見学を加えるということで、調整する。